

第1学年 生活科の実践

1 単元名 「おうちのおしごとと大作戦 ～おうちのしごとはまかせとけ～」

2 単元の目標

家族にしてもらっていることを振り返り、家族の愛情に気付くとともに、家庭内で自分にできることなどを考え、自分の役割を見つけ進んで行うことができる。

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
家族の生活に関心を持ち、進んで家族と関わり、生活を振り返ったり、実際に自分にできることを探したりして、やってみようとするができる。	家庭の仕事や自分にできることについて考え、実際に取り組むことができる。また、取り組んだ様子や感想について、表現することができる。	家族の愛情や温かさ、また、自分は家族の中で支えられていることに気づくとともに、自分の役割にも気づくことができる。

3 ひびき合う子どもたちを目指すための指導の工夫

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや、自分でできることなどについて考え、自分の役割を果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」にあたる。

家族は、人間が最初に所属する社会であり、人間の発達にとって、最も基礎的な集団である。子ども達は、家族の中に生まれ、家族の中で成長や発達をする。子ども達が毎日健やかに生活できるのは、集団の中で自分以外の家族によって温かく見守られ、必要なものを与えられているからだ考える。家族の存在は、子ども達とは切っても切れない縁で結ばれており、その関わりは非常に重要である。しかし、子どもの実態でも述べたが、家の仕事を家の人に言われてからしたり、自分が「してもらっている」ということに気付いていなかったりする子どもが多い。家族から与えられている事象は全て、身の回りであって当然のものという感覚でしかないだろう。あまりに身近すぎて、普段家族が自分に色々な事を与えてくれていることや、その裏に隠された思いには至っていないと考える。だからこそ、子ども達にはここで、家族が与える愛情や、そこから生まれる感謝の気持ちに気づかせたい。小学校に入学して半年が経過し、学級という一つの集団で生活をしてきた。共に生活をしていくためには、係活動などの自分の役割を積極的に果たし、皆のために何かできることを探そうが必要になる。学級でそのような経験をしてきた子ども達は、家庭という集団においても、自分の役割を考えて取り組もうとするだろう。自分だけのことから周囲のことへと目を向け、他の人の思いや考えを素直に受け止められるようになるのではないだろうか。

本単元は、自分の生活をもとにしながら、自分で調べ、自分で決め、自分でやってみるというように、子ども達が主体的に活動できる機会になると思われる。また、友達と感想を交流したり、質問をしあったりしながら、もっといい方法や考えを取り入れたいというさらなる意欲を持つこともできるだろう。そして、家族の温かさや愛情に気づき、自分にできることに一生懸命取り組むことから、生活をよりよくしようとする態度を養うことにも繋がるのではないかと考える。

(2) 指導について

①感謝の気持ちを育めるように

家族というテーマで単元を構成するにあたり、一番大切にしたいのは、子ども達に対して家族が与えることの根底にある「家族の愛」への気付きである。今回、子ども達には家族の思いに気づき、「感謝」の心情を育みたいと考えた。当たり前になりすぎた日常の中から、「してくれてありがとう」という思いが持てる様、単元の中で二度、家族の気持ちを考えるであろう場面を設定し、変容を見取りたいと考えた。

始めの機会は、家の仕事調べをした後に、グループで話し合う場面である。ここでは、自分が知っていた仕事だけではなく、実際に家庭で調べてくることによって、予想以上の仕事の数が出てきたり、その内容についても、見ていて大変そうだという印象を持ったりするだろう。そのような考えから、その家の仕事は家族が皆のため、そして自分のために行っているからこそ、生活に困ることがなくいられることに気付かせたい。そこで、「家族がいろいろな家の仕事をしてくれていて嬉しい。ありがとう。」という思いを持って欲しい。しかし、ただ家族の思いを想像するだけでは不十分で、本当の感謝には届かないのではないだろうか。実際にその仕事の難しさや大変さを体験してこそ、普段、同じ仕事をしている家の人の思いがわかるようになると思うので、二回目の機会は家の仕事を体験した後に設定する。その二回の機会を作ることで、一回目は単に「ありがとう」と思っただけの表面だけの感謝になったとしても、活動を取り入れた後は、自分の実体験をもとにした活動の感想から、内面に迫る「ありがとう」に辿り着くようにしたい。家庭ごとに家族構成や家庭生活の様子が異なるため、それぞれの家庭に配慮する必要があるが、愛情が根底にあるということに違いは無いだろう。また、環境は違えど家族への感謝の気持ちを持ってほしいという願いの姿は同じである。それぞれの家庭の違いやよさを認められるように配慮していく。

②自分の仕事に責任を持てるように「〇〇は、ぼく・わたしにまかせて」

始めは「楽しそうだ。」「やってみたい。」と思って活動に入っていくことが考えられるが、家の仕事は生活していく上で必要な事項であり、遊びではない。また、気まぐれに行うような趣味でもない。子ども達に家の仕事の重要性や、それをしている家族への感謝の気持ちを感じることができるようになるためにも、活動後の振り返りをしっかりと行いたい。活動後の振り返りでは、もちろん、活動したことが家の人に認められたり褒められたりして、良い気分で活動を終える子もいるだろう。だが、やると自分で決めた方がいいが、忘れたり仕事がおろそかになったりする子も出てくると思われる。そこで、「もっと頑張りたい。」「もっと上手になりたい。」というように、これからに目が向いている子の活動後の感想や、家の人からのコメントなどを取り上げ、さらなる意欲を持つことができるようにしたい。意欲を持つことによって、自分の活動をより良くしていこうという考えも生まれ、子ども達同士の高め合いにも繋がるのではないだろうか。そして、最終的には自分が活動してきたことを、「これは自分の仕事だから、家族に任せてもらいたい。」と考えられるようにしていく。この考えは、前項でも挙げた家族への感謝の気持ちと共に、学習していく上での切実な問題となるだろう。「ありがとうを伝えたい。」「任されたい。」、そのためにはどうしたら良いかと考える過程は、子ども達にとって最も重要な部分になるだろう。任されるには、忘れたり内容が適当になったりしては成り立たない。自分の仕事に責任を持って取り組めるよう、子ども達の意識を仕事のやりかたや時間に向け、任せられるにはどのようなことが必要かを、家族が自分に対する思いに添って考えていけるようにしたい。

③活動の重視

家庭内にある仕事と聞けば、すぐにいくつか挙がるだろう。しかし、家族にしてもらっていることにあまり意識がない子ども達にとって、考えられる仕事は全てではないため、他に何があるのかと調べたくなることが予想される。そこで、調べる際には、実際に観察することを通して、家庭内の仕事の大変さや多さを実感させたい。その後、見ていた時は気付かなくても、やってみて初めてわかる気付きを得て、家族がしている仕事 genuinely 大変だということを体験できるようにしたい。また、実施場所となる家庭には、学習のねらいや教師の思いを伝え、協力をお願いする。子どもの実態として、課題だけを捉えて「難しそう。」「どうすればいいかわからない。」と不安になる子も見られるので、まずは何かを挑戦してみようという気持ちで実際に活動し、頑張ったという満足感をもとに、自信の無さや不安な気持ちを少なくしていく。少しでも困ったことやどうしたらいいかわからないことが生まれた際には、学級全体の話題に取り上げ、みんなで解決策を考えていけるようにしたい。また、学校で体験してみたいという声や、やり方を見せたいなどの話も子ども達から出ることが予想される。その場合は、実際にやってみることができるようになり代わりとなる物を用意し、いつでも活動を通して学習を進められるようにしたい。

④ひびき合いについて

本単元では、一回目の家庭での実施後における振り返りの場面でひびき合いが見られると考える。感謝の気持ちを元に、自分にできる仕事を一人ひとりが考えて実施してきた後は、やってきた感想から「家の人、いろいろなことを毎日やっていて大変だ。」という感想が出てくると考えられる。そこで、家族からの手紙を読むことによって、仕事の大変さだけではなく、「家族の思いや愛情」について気づけるようにしたい。それぞれの家庭の状況は違うが、家族が家族のことを思いやって生活しているのは、皆同じである。まずはその思いに一人ひとりが気づき、友達の話も聞く中から、さらに家族の思いに関する新たな気付きが得られるようにする。そして、そのように気づきが得られた後ならば、さらに「もっとこうなりたい」「こうしたらどうだろうか」と切実感を持って、よりよい活動の追究もできるのではないだろうか。家族の思いに気づくことで、家族のためになりたいという思いをもっと表現するために、必要な考えを出し合い、自分の仕事への責任や活動の質を高めていこうとする姿を、本時のひびき合いとしたい。

4 単元指導計画（全20時間）

時	学習活動	【評価】 留意点（・）
1-3	○大好きな「ぼく・わたしの家族」をみんなに紹介しよう	【自分の家族のことを思い出して、カードに思いを書こうとしている：ア】 【カードに家族の好きなところをまとめている：イ】
4-6	○家の仕事にはどんな仕事があるのかな。 ○家の仕事を調べよう、考えよう、発表しよう どうしてお家の人はいくさんの家の仕事をやってくれているのかな	【自分の生活を振り返りながら、どんな仕事があるか思い出そうとしている：ア】 【思い出した仕事について、ワークシートに書こうとしている：イ】 【家の仕事について調べてきたことを、進んで発言している：ア】 【多くの仕事をしている家族の気持ちについて、想像しながら気付くことができる：ウ】
7-10	○「みんなのためにいつもたくさんのことをありがとう」できることをやってみよう ○おしごと大作戦 1（家庭での実施）	【自分にできそうな仕事を考え、一生懸命取り組もうとしている：ア】 【自分の行う仕事について、見通しを持って計画を立てることができる：イ】
11-12	○みんなはどんなお仕事をしたのかな。お話ししたい、聞きたい	【自分が行ってきた家の仕事について、様子や課題を皆に伝えるように発表している：アイ】 【友達が行ってきたことについて、良かったところや工夫したところが良かったところに気付くことができる：ウ】

13-15 (本時： 14)	○お家の人は、そんな風に思ってくれていたんだね ○家族のためにもっと何かしたい、上手になりたいな。	【家の人の思いや願いに気付き、自分にできることを考えようとしている：イウ】 【自分の考えを持ち、友達と交流することによって、さらに家族の思いに添った活動を考えることができる：イ】
16-17	○おしごと大作戦 2 ○やってきたことを振り返ろう ○ありがとうを伝えよう	【自分が行ってきた家の仕事について、様子や課題を皆に伝わるように発表している：アイ】 【友達が行ってきたことについて、良かったところや工夫したところがよかったところに気付くことができる：ウ】
18-20	○これからどうするか考えよう。 ○自分の生活を振り返って、1日を見直そう	・これで終わりではなく、継続して活動ができるように、皆のために働くことの大切さを確認する。 ・家の仕事を継続すると共に、自分の生活も振り返って、生活習慣を見直す。

5 本時について

(1) 本時目標 (14 / 20)

家族の思いに添って、自分にできることを考えるとともに、友達との交流を通してよりよい活動内容を考えることができる。

(2) 本時展開

学習内容	指導上の留意点、支援（・）、評価（【】）
もっと家族のためになるには、どうしたらいいかな ○続ける ・もうやらなくていいって思っていたけど、これからも続けてほしいってお母さんが言っていたから。 ○いろいろする ・1つの仕事だけじゃなくて、いろいろしてあげたほうが喜ぶと思うから。 ・いろいろなことを「やろうか？」と私に言われると、助かるって言っていたから。 ○もっと「ここをこんなふうにやる」(気をつける) ・前にやっていて、やり方がわからない時があったから。 ・お母さんが「もっとこうしたらいいよ。」って教えてくれたからやってみたい。 ・上手になるために練習したい。 ○忘れない ・何回かやらない日があったけど、今度は毎日やりたいから ・忘れたらみんなが困るから ○お家の人みたいに、みんなのことを考えてやる ・大変だって思ったけど、お家の人はそれだけの気持ちじゃなかったから、まねしたい。 ○任せて欲しい ・お家の仕事を1つ減らしたいから。 ・任せられれば、お家の人も助かるから。	・前時までに自分の考えを持ち、まとめておく。 ・なぜ、そうしたいと思ったかについて、自分のいままでの活動や、家族の反応などから理由が述べられるようにする。 ・「ちゃんと」や「しっかり」という抽象的な言葉ではなく、「何を」「どのように」と具体的に詳しく話ができるようにする。 ・発表したことに対して、質問や感想を言える様にする。 ・「ここをこうしたい」という思いがある子には、伝わりやすいようにやってみせることも勧める。 ・練習したいという考えが出たら、できるように実物（または実物に近い物）を用意する。 ・どうしたらいいか困ったことや悩みが出てきた場合には、みんなの話題にし、みんなで相談していく。 ・理由に「家族の思い」を含んだ考えが出た場合については、前時の流れの掲示物を確認し、家の人の気持ちを再確認する。 ・話し合いの後、もう一度自分の考えを持てるようにする。 【自分の考えを持ち、友達と交流することによって、さらに家族の思いに添った活動を考えることができる：イ】

*** 本時案 (当日案)**

(1) 本時目標 (14 / 20)

仕事を任されていた人が活動してきた様子や体験した時の話から、仕事を任されるための秘密を見つけ、自分の任せてほしい仕事の計画に生かすことができる。

(2) 本時展開

学習内容	指導上の留意点、支援 (・)、評価 (【】)
お家の仕事を「お任せされる秘密」を探ろう お任せされる秘密を予想する お任せされた人の話を聞く <お任せされた人の話からわかる秘密> ○続ける ・もうやらなくていいって思っていたけど、これからも続けてほしいってお母さんが言っていたから。 ○もっと「ここをこんなふうにやる」(気をつける) ・前にやっていて、やり方がわからない時があったから。 ・お母さんが「もっとこうしたらいいよ。」って教えてくれたからやってみたい。 ・上手になるために練習したい。 ○忘れない ・何回かやらない日があったけど、今度は毎日やりたから ・忘れたらみんなが困るから ○お家の人みたいに、みんなのことを考えてやる ・大変だって思ったけど、お家の人はそれだけの気持ちじゃなかったから、まねしたい。 ○家の人の気持ちを聞かないといけない ・聞いてみないとどう思っているかわからない ＊「家の人の気持ちを聞かないといけない」が出た場合 ・家の人の気持ちはどうだったのかということを任された人に聞いた後、その本人の保護者からもらった手紙を読む ＊「家の人の気持ちを聞かないといけない」が出なかった場合。 ・前時の終わりに個人的に「家の人に聞いてもいいか」と尋ねてきた子がいたので、その子になぜ、聞きたいと思ったのかを聞く。 理由を聞いた後、お任せされた人の事へ戻るようにし、「任せたほうの話として、保護者の手紙を紹介する。 <お母さんの手紙からわかった秘密> ○きもちがいい(きれいだから) → 任せてもらえそうなことになった。 自分の仕事も任されたいな。お仕事を任されるための作戦を立ててみよう 自分が任せて欲しい仕事の、任せてもらうための作戦を一人ひとりが立てる。 学習の振り返りをする	・お任せされた人の動きや話の中で、疑問に思ったことや感想等は言えるようにする。 ・「ちゃんと」や「しっかり」という抽象的な言葉ではなく、「何を」「どのように」と具体的に詳しく話ができるようにする。 ・見つけた秘密を出していく中で、同じ事でもいいので、自分の言葉で話ができるようにする。 ・理由に「家族の思い」を含んだ考えが出た場合については、前時の流れの掲示物を確認し、家の人の気持ちを再確認する。 【仕事を任された人の実演から、仕事を任されるための秘密に気付いている：ウ】 ・任されていた子の保護者から、任せた側の気持ちとして手紙をもらっている。状況に応じて、提示の仕方を工夫したい。 ・家の人の気持ちについて、子ども達から十分出れば、家の人からの手紙は出さないなど、状況によって、手紙の出し方を変更する。 ・前半で探った「お任せされる秘密」を参考にしながら、自分の選んだ仕事の計画立てを自分でする。 ・計画を立てる際に困ったら、同じ仕事をしようと思っている人に聞きに行き、相談ができるように声を掛ける。 【お任せされるための秘密を取り入れながら、自分の仕事の計画を立てることができる：イ】 ・様子によって、計画書を皆に発表する時間があれば、時間を取って発表する。

6 実践を終えて

(1) 本時までの様子について

第1時

スピーチや日記でも家族のことが多く書いてあり、友達の話す家族のスピーチでもよく質問をしている。そこから子どもたちの視点が、さらに家族に向けられるように話題を振った。

「みんなは家族と一緒にいることが多いから、家族が大好きなんだね。みんなが好きな人のこと、知りたいな」

子ども達は「**会ったことあるでしょ？**」と「知っている＝見たことある」と捉えていたので、「でも、家にいるときのことは見たことがないなあ。みんなは知ってるの？」と聞くと、「**知ってるよ**」「**知らない**」に分かれた。知らない人もいたので、家の人がしていることを知っている人に話を聞いた。

「**うちのママね、3時に起きてアイロンしてるよ。明日使うから夜やるって**」「**うちのママはね、お料理頑張ってるよ。でもパパはグータラしてる。**」「**うちもそう、パパは何もしない。**」

何人かが発言したところ、挙手が増えてきたので「みんなが言いたいなら、みんなで書いてみよう」ということになり、家族の得意なこと、頑張っていることを探してカードに書くことになった。

第2時

その後、もっと書きたい、絵に色を塗りたいなど、書くことに満足できていない子が多かったので、十分に時間をとり、家族のことを意識する時間になった。集めた家族自慢の紙をいくつか紹介し、自分が読んだ感想を述べたところ、「**いいな、ぼくも見たい。**」「**先生だけ読むなんてずるいよ。**」「**みんなの見たい。**」と、友達のことが気になる様子が出てきたので、近くの人話を聞いてみたらと投げかけたところ、「**聞いてみたい**」「**話したい**」

という声があった。そこで、座席で近い3人組を作り、グループで話す時間にした。ただ聞くだけ、話すだけではなく、話した人には必ず質問や感想を述べ、話に参加するようにした。そして、グループで話をした後、全体の場で家族の得意なことや頑張っていることを挙げていった。

挙げた結果、「仕事じゃないこと」「お家の仕事（家族のため）」「家族のためじゃなくて、家じゃないいろいろな仕事」の3つに分けられた。3つの内容を見ていくと、「**うちの仕事、いっぱいだね**」「**〇〇の仕事はうちでもやってたよ**」「**うちと同じのあったね**」など、子ども達の目は最も多かった家の仕事へ向いていた。しかし、多いといっても8個しか挙がっていなかった。「おうちのお仕事はもうないかな。どう？」と、聞いたところ、

「**もっとあるよ**」「**もっとあるけどわからない**」「**はっきりしないなあ**」などの悩んでいる声が多く聞こえた。本当に知らないため、「**もうない**」と言っている子もいる。どうしようかと考えていると、「**見てくればいいんだ**」とつぶやいた子がいて、皆もその意見に賛成した。見て調べてくるプロである「お仕事名探偵」になって仕事を見つけ、金、土、日の3日を使って調べてくることになった。また、名探偵と聞いたとたん、テレビアニメの影響か「**名探偵にまかせとけ**」と子ども達はつぶやいた。中には、ポーズまできめている子もいた。「みんなで言う？」と聞くと「みんなで言いたい」と言って黒板の前に出てきた。そこで、皆で「名探偵にまかせとけ」と言って帰った。

第3時

仕事を調べてきた感想を出し合ったところ、「**おもしろかった**」「**難しかった、大変だった**」という声があった。難しかったというのは、なかなか家の仕事が見つからなかったようだ。「家の仕事＝家族のための仕事」というように定義はしてあったものの、どれが家族のためになっているかまでは、考えられていないようだ。難しかったと答えた子に対し、簡単だったという感想を持った子もいたので、どうしたら簡単だったのかコツも伝え合った。「**もっとありそうなんだけど・・・**」と考える子の意見も聞き、再度、「**まだ仕事調べを行いたい**」と子ども達は意欲を持った。また、調べるだけではなく、お手伝いをしたという子もいたので、「**おうちでやった仕事をカードに書いて、それをみんなに伝えたい。**」という意見も出た。皆もその意見に賛成で、もう一度やってみたいという気持ちが高まった。もう調べ切れていると思っている子は、実際にお手伝いした人の話を聞いたことで、「**自分もやってみたい**」と思い、さらなる目標を持った。

第4時

調べたり、実際にやったりすることを皆行ったようで、多くの感想は「楽しかった。もっとやってみたい」という思いを持った子が多い。仕事の様子や詳しいやり方を教えてもらった子もいた。

前時の振り返りで、「家で見えてきたことを発表したい。」「言いたい。」と思っている子が数名いたため、調べ終わったけどどうしようかと投げかけた。すると「みんなのを見たい」「聞きたい」という声が挙がり、発表の時間を設けることになった。発表するにあたり、今日いきなり発表することは不安だし、できないという様子もあったのと、「いきなりは無理」という声も出ていたので、調べたりやってみたりしたことを見直し、次時の発表に備えた。

第5時

まず、調べてきた仕事を全体で出していった。同じような事も出てきたが、子ども達は調べてきたことを皆に伝えたい思いはあったようだ。出て行く中で、子ども達が疑問に思った仕事が2つあった。それは「会社」と「お買い物」である。会社は、家族自慢をしていた中で始めて家の仕事について扱った時、「家族のためになっていないんじゃないか。家族以外の人役にも立っているんじゃないか」という意見により、家の仕事から外れていた。今回も出た瞬間、「え？会社？」「家族のためじゃないでしょ。」という声が他の子から挙がった。しかし、発言した子にとって「会社」は、まだ「家の仕事だ」という認識だったようだ。その時は理由も言わなかったため、一度保留となった。

また、買い物についても反論が出た。家の仕事調べでは多くの子が挙げていた内容だったので、何も迷うことはないと思ったが、一人が反論したことにより多くが反対派に流れた。「買い物は家から出るんだから、家の仕事じゃない」という考えと、「お買い物は家族のためになるから家の仕事だ」という考えに分かれていた。理由を重ねる子も少なかったため、これもまた保留となった。その日の振り返りでは、数の多さに驚いたり、いろいろあって大変だと気付いたりした子もいたが、3名の子が「会社とお買い物は家の仕事なのかはっきりさせたい」と書いていた。

第6時

前時に「会社とお買い物」について保留にしたことを全体で振り返り、「会社とお買物が家の仕事なのか」をはっきりさせたい子がいたことを話した。すると、他の子からも「はっきりさせたい」という声が挙がった。そこで、自分はどっちだと思うか、なぜそう思うのかについて話し合った。

	お買い物	会社
家の仕事	・ お料理の材料になっているから ・ 家族が作っている ・ 料理はお家のお仕事だし、家族のため	・ 会社とかで働いているからお金がもらえている ・ お金で買い物をする。お金が無かったら何も買えない
家の仕事ではない	・ 家の外にでるから、家じゃない（空間的な話）	・ 皆のためになっているから、家族のためだけじゃない。 ・ 家族以外がやっている
結果	☆ 家の仕事 （例） 庭の草むしりは、家の外に出るけれど家の仕事。家の人が見るし、家の人喜んでりきれいだなって思ったりするためにする。 ↓ 家から出ても、家族のためなら家の仕事になっている。	☆ 家の仕事 確かに食べ物や洋服はお金で買う。お金が無かったら何も食べられないし、服も無い。食べ物や服は家族のためのもの。 ↓ 家族のためのものを買うお金がなければ暮らせない。パパは会社に行って、お料理とかお掃除とか何もしないとってたけど、パパだってお仕事して家族のためになっているんだとわかった。

話し合いをして理由を話し合う中で、「最初は会社はお家の仕事じゃないと思ったけど、やっぱ変わった」という声も聞こえた。家の仕事とは、ある子の発言から「家族みんなが家族みんなのためにする仕事」と定義された。

会社も家の仕事になったことから、お父さんにも注目が集まった。「お父さんも家のお仕事をしているんだ。」という気付きから、「じゃあ他の人は？」と人に目が向いた。すると、「お兄ちゃんはお風呂を洗っている。」や「お姉ちゃんはトイレ掃除をしているよ。」、「4歳の弟は布団をたたむ。」「5歳の妹は片づけをする。」といった内容も出てきた。子ども達は、自分より年下の妹や弟が仕事をしていることに「えー！」「すごい！」と驚きの様子。

いろいろなことがたくさんある家の仕事を、いろいろな人がやっていたことがわかってどう思うか聞いたところ、子ども達からは

「すごい」（いろいろな人がやってくれているから）

「うれしい」（「」）

「感謝の気持ち」（家族みんなが、家族みんなのために仕事をしているから）

「ありがとう」（お部屋がきれいなのは、お母さんのおかげ）

などの意見が出た。いつもやってくれているということを子ども達に返したところ、「何かしてあげたい。」という思いが出てきた。最初は、手紙やプレゼント、招待する会を開くといったことも候補に挙がったが、「みんなのために」を考えると、それらでは「みんなのためにはならない」という意見が出て、家族はみんなのための仕事をしているのだから、自分たちもお手伝いをしたいとなった。子ども達は「ありがとうのお返し」をしたいようだ。

第7時

何かしたいという思いを持った子ども達は、仕事調べをしたり、実際にやってみたりした中で仕事を選んだ。仕事調べから時間も空いていたので、以前に書いた仕事調べの紙を振り返った。すると、

①お皿洗い②お風呂掃除③布団だし④掃除⑤料理の手伝い⑥タオル干し

などが挙がった。お皿洗いを選んだ子の中には、「お皿洗いを前に少し手伝った時、「毎日やってくれたらいいのに」とお母さんに言われたことを思い出して決めた子もいた。家族のちょっと言葉も聞きのがさず、その時の気持ちを大事にして仕事を選べていた。また、自分が手伝いたいことを言っていく中で、みんなに相談をした子もいた。

「ぼくは、お皿洗いをしたいんだけど、あまりやったことがないんだ。やってみたいんだ。」

この相談から、みんなで「お皿を洗ってみよう」ということになり、家庭科室の見学に行った。「どうしても今日やりたい」と思っている子が多く、次の時間は家庭科室は使えなかったが、洗剤やスポンジを水道場に運んでやることとなった。また、「自分たちが食べるときに使ったお皿を洗えば良いじゃない」と言った子がいたので、給食室で許可をもらい、その日の給食で使った平皿を洗った。やっている最中には、友達の様子を見ながら進める子や、洗剤をつけすぎてすすぎがうまくいかない子もいた。その日の感想からは「何度も滑りそうになったけど、お母さんは滑らなくてすごい」「ひっくり返すのがうまい」など、家族へ尊敬の気持ちを持っているのがわかった。お皿洗いをするなど、子ども達は活動に目が向いてきたが、土日仕事をやりたいという子と、もう少し後からが良いという子がいたので、土日は決めたお仕事をやりたい人はやってみるということになった。

第8時

土日に仕事をやってみたのはクラスの3分の2程度だった。やってみてどうだったか聞いたところ、すぐに「お皿洗いがしたいと思っていたんだけど、お母さんに「お皿洗うなら洗濯物をたたんでよ」と言われたから、やる仕事をかえたの。」

と、話す子がいた。全体に聞いてみたら「うちも！」「洗濯物がいいって言った。」など、お家の人の願いと自分のやりたかったこととの違いに気付く子が多かった。それと同時に、自分で決めた仕事をやってきた子の話も聞いた。概ね、家族は喜んでくれたり、「ありがとう」と言ってくれたりしていたようである。その話をしていたら、ちょうど発言した子のお母さんが忘れ物を届けに来た。お母さんにお話を聞いてみる？と投げかけた

ころ、子ども達は「**やってくれてどんな気持ちだった？**」や「**どんなことが嬉しかったの？**」と、友達のお母さんに聞いていた。その様子から、「**お家の人は本当に喜んでくれているんだ**」ということが伝わっただろう。

その後、お試しの時間を経て、再度自分が家族のためにしたい仕事を考えた。

①お皿洗い②お風呂掃除③洗濯物たたみ・干し・布団たたみ④ごはん関係（お料理手伝い・お米とぎ）が出た。2名ほど迷っているという子がいたので、みんなでどうしたら良いか考え、「**洗濯物が大変だったからそれにしたら？**」とか、「**お家の人に聞いたら？**」というアドバイスをもらった。振り返りには、「**迷っている二人が何をやるのか気になる**」という子もいた。

いろいろやってみたいという意見も出たが、「**一つを一生懸命やりたい**」「**詳しく伝えたい**」「**1つでも大変そうなのに、いくつもやったらもっと大変**」という意見が出て、一つのことを続けていくことになった。その日からやることにし、5日程度で終わりにする予定だけ立った。

次の日、迷っている二人が何をすることに決めたのか、気になっていた人がいたことを話すと、みんなも「**そういえばどうなったんだろうね**」と興味を示した。迷っていた二人に聞いてみると、一人はお家の人に聞いたら洗濯物たたみがいいといわれ、もう一人はご飯の支度をするようになったようだ。早速、昨日も活動したらしい。これで全員何をするか決まったところで、昨日家でやったことについて、3人組で話をし情報交換をした。卵を割ったという子に対しては、「**その卵は何に使ったの？**」や「**卵を割る仕事は、毎日やるわけ無いじゃないのに、それでいいの？**」と訊ねる様子も見られた。子ども達の中には、「**お家の人は毎日やっているのだから、自分も毎日やらなきゃいけない**」と感じている子も何人かいる。

頑張りたいことが皆決まったので、気合いを入れるために何か言いたいというアイディアが子ども達から出た。仕事調べの時は「**名探偵に任せとけ！**」と帰りに言って帰っていたので、今回もそういうものが欲しいようだった。そこで、この生活科の学習に題名をつけたら？と投げかけた。子ども達から「**お父さんお母さんのためにお仕事頑張るぞ**」「**お手伝い大作戦**」「**お手伝いはまかせとけ**」の3つが出たが、一番最初のは「長いから言いづらい」という点で却下された。そこで、題名を「**お手伝い大作戦**」にして、皆で「**お手伝いはまかせとけ！**」と言うことになった。

第9時

お手伝い大作戦という名前になったが、そもそも子ども達は何のために「やりたい」と思っているかを考えると、「家の仕事を1つ減らしてあげたい。家族のためにやりたい」という思いを持ったからだだった。家のお仕事を減らすのに、お手伝い大作戦でいいのかと考え、「**お手伝いとお仕事**」について皆で話しあった。これは教師から投げかけた部分である。「**お仕事とお手伝いって同じ？違う？**」と訊くと、子ども達からは「**違う**」という言葉が返ってきた。どうして違うのか？どこが違うのか？について話していくと、「**お手伝いはみんなです、少しだけする、してあげる**」、「**お仕事はひとりです、全部（最初から最後まで）する、自分でする**」という区分けがされた。「じゃあ、お手伝いとお仕事ではどちらをしたい？」と訊くと、最初は3分の1くらいがお手伝い、3分の2くらいがお仕事と答えた。どうしてそう思ったのかと理由を話していると、お仕事がいいと言っていた子が「**お仕事の方が家族が喜んでくれるんじゃないか。」「1つ減らしてあげれば楽になる。」「楽をさせてあげたい。**」という内容が出てきた。それを聞いたら他の子も「お仕事がいい。」と思っただけでなく、お手伝いじゃなくしてお仕事をしたいということになった。そこで、「お手伝い大作戦」から「**お仕事大作戦**」へと変わり、「お手伝いは任せとけ」から「**お仕事は任せとけ**」にすることになった。

第10時

実施した様子を毎日書いていたのだが、感想の中に「**洗濯物をたたむのがわかりませんでした。**」と書いてある子を見つけた。書いた本人を呼んで「困っていることをみんなに聞いてみたら？」と促したところ、皆からは「**練習すればいいよ。」「お皿洗いみたいにみんなでやろうよ。」「教えてあげるよ。**」と声が挙がった。そこで、皆で洗濯物たたみをした。たためないと困っていた子も、積極的にタオルやシャツをたたみ、「今日はお家でできそう？」と訊くと「できそう。」と話していた。また、その次の日の振り返りでは、別の子が「**洗濯物を干すことをしたけど、ぜんぜんできなかった。**」と書いていた。他の子から質問が出て、「**干すって何に？」「どんな物？タオル？**」など友達のを悩みにしていた。どうやらその子は、ハンガーに洋服を掛けるのを難しいと

おもったようだ。前日のことがあったので、「それじゃあみんなで作ってみよう。」という流れになり、友達からハンガーへのかけ方を教わっていた。昨日洗濯物たたみができなかった子は、帰って少したためようになったようだった。引き続き、洗濯物をたたんだり、お皿洗いをしたりと、自分がやってきたことを練習する時間のようになっていたが、その中で、「ぼくはこうやったよ。」「こんな風にやったよ」など、実際に見せながら友達と話す姿が見られた。

第11時

「お仕事大作戦」の最終日ということだったので、お仕事大作戦をやってみてどうだったかを発表し合った。最初はあまり皆に伝えたいという思いは無い様子だったのだが、グループでやっていくうちに質問などをする様子が見られてきた。グループの中では、難しかったことや困ったことがあった子に対して、「グループの人にお悩みを相談してみたら？」と声をかけた。すると、お風呂掃除のことで困っていた子がいるグループは、段ボール箱でつくった風呂（子どもは移動式風呂と呼んでいる）に行き、スポンジを使って洗う様子を再現していた。また、お皿洗いで困っている子がいたグループでは、「**何で泡を流しているの？」「手でこうすればいい（と言って、お皿をこする）**」など、困っていることの相談に乗る姿が見られた。やったことがないことでも、普段家のことを手伝ったり見ていたりする子は、思い出して話ができていた。グループで話をした後、全体で伝え合った。4人くらいが挙手し、実演を交えながら見せた。

お仕事大作戦をしてお感想を聞いたところ、「**楽しかった（たたんでいると楽しいから）」「私がやるよって言ったのがおもしろかった（みんなに言うのがおもしろい）」「大変さがわかった（自分でやったから）」「難しかった（力があるから）」**などが出て、中でも一番多いのは「**楽しかった**」だった。そこで、「5日間お仕事をしてきて、みんなの中の多くの人が楽しかったって言っているけど、いつもお仕事をしてお家の人はどうなんだろうね？」と子ども達に問いかけた。すると、「**大変だって言ってた。」「疲れちゃうって言ってた。**」などのマイナスのイメージが挙がってきた。しかし、以前このような話になったとき一人だけ「うちはそんなこと言っていないよ。」と言った子がいたので、その子に返すと「うちではあんまり言わない。」と話した。**その子の家では言わないけれど、うちでは言っている。」「もしかしたら、もっと他にも思っていることがあるかもしれない」と**数名が思うようになっていて、**家の人に聞いてみたいという意見が出た。**聞いてくるにあたり、紙に書きたいと言った子がいたので、みんなで「**ぼくも聞いてきたい。」「白い紙が欲しい**」など、**聞く気持ちは高まってきた。**家族の人から話を聞くことで、家族が与えている愛情に気付いてほしいと思う。

第12時

お家の人に聞いてどう？予想と合ってた？と聞くと、すぐに「**違う**」という声が返ってきた。中には「同じだった」と言っていた子もいたので全体に聞いてみると、**3分の2以上は「違った」と思っていた。**違ったことを聞いていくと、「**家族のことを考えると大変じゃない」「楽しい」「疲れない**」など、マイナスのイメージしかないと思っていた子ども達の予想とは、反対の考えが出てきた。いろいろな意見の理由となる部分はすべて「**家族（のため）**」という言葉が入っており、子ども達は「**家族のことを考えていつも仕事をしているんだ**」と気付いたようだ。ただ、何かすることが楽しかった子ども達には、**家族のことを考えてやるという意識はないし、子ども達も「忘れてた。思わなかった。」と自覚している。**

また、お仕事大作戦の最終日である先週の金曜日、帰り際に「**今日はやるけど明日からは、やらない」「クリスマスまではやる。サンタさんがくるから**」と子ども達が話していたのを聞いた。何のために大作戦を始めたのか目的を見失い、もう終わったという満足感を得ている印象を受けた。そこで、土日にも仕事をした人と、しなかった人を聞いた。「**出かけて楽しかったからできなかった**」と言った子に対しては「**ぼくだって出かけたけどやったよ。」「お家の人も出かけるじゃん**」など、子どもから声**が挙がった。**何のためにやりたいと思ったのかを全体で確認すると、「**そっか。続けなきゃ仕事が減らない**」と原点に戻ることができた。そして、いつも気合を入れるために皆で言っている「**お仕事は任せとけ！**」というフレーズを出し、こちらから「**本当に皆はお仕事を任せとけ！**と言って任されていたの？」と尋ねた。すると、**任されていると手を挙げたのは1名だけ。他の子は「うーん」と考える様子。**家族への思いが無かったこと、続けなかったこと、任されてなかったことなどを含み、子ども達の中で「**お仕事大作戦は失敗した**」という思いが生まれている。失敗したという悔しさから、現在は「**何としてでも次は成功させるぞ**」という思いが生まれ

ている。その日の帰り、教師から「今日はいつもの言わないの？」と、いつも言っている「お仕事は任せとけ」という言葉について聞くと、「今日は言うって感じじゃない」、「なんか、言えないな」と話し、言わなかった。

第13時

失敗してしまった「お仕事大作戦～お仕事は任せとけ～」を次は成功させたいという思いは未だ継続している。「お仕事は任せとけ」というフレーズを再び出し、「お仕事」と「任せとけ」の点から話しを始めた。こちらから「お仕事大作戦でお家の仕事を頑張ったよという人？」と尋ねると、半分くらいが手を挙げた。「全部やったもん」という自慢げに話す子もいれば、「うーん。お仕事かも…」と首をかしげている子もいる。そこで、第9時に行った「手伝いと仕事」についても一度見直し、お仕事は「一人でやる。全部やる。自分でやる」という、自分たちで出し合った基準が満たされているかを考えながら、「自分にもできそうな仕事」を挙げていった。洗濯物たたみやお風呂洗いなどいくつか仕事が挙げたが、その中に料理があった。今まで料理をやってきた子は「自分で全部やってきた。」と話していたが、他の子ども達は「自分がやったときはお母さんとやった」「火は危ないって言われてやらせてもらえなかったから、全部はできないでしょ」と自分の体験をもとに、なぜ仕事ではないかを伝えた結果、料理は仕事から外れた。その他に出てきたトイレ掃除も、自分の体験から「それは毎日、一人でやるのは自分には無理だ」と話す子によって、意見を出した子も「それじゃあ考えよう」と言って仕事にするのはやめた。

自分にできそうな仕事を選んだ後、子ども達は、すぐに今日からやろうとしていたが、「作戦が必要だ」と言い出した子により、今度は成功させたいという思いがまた出てきた。成功するとは「お任せされて続けること」だと子ども達は思っている。じゃあお任せされるにはどうしたらいいのかという疑問が出てきたが、どうしていいかわからないで悩んでいる。そこで、クラスにお任せされていた人が1人いたことを全体に話すと、「聞けばいいんじゃない？」という意見が出た。そして、たった1人だけ任されていた子に目が向いたので、「お任せされていた人には何か秘密があるんじゃない？」と返したところ、子ども達は「秘密を探りたい」「聞いてみたい」「知りたい」と思ったようである。振り返りカードには、この時間に気づいたこと、次にやりたいことで「お任せされていた人の秘密が知りたい」と書いている子は、約4割である。

(2) 計画段階と実際の流れについて

計画段階での本時案は、子ども達が家庭でのお仕事大作戦の実施期間を終えた後に、感想や反省をもとにして、もう一度やってみたいという思いを持つだろうと予想し、展開を考えた。「もっとこうしたい。」「前は忘れちゃったから、今回は忘れないようにやりたい。」など、自分の活動を振り返って、一人ひとりが考える、よりよいお仕事大作戦を目指せるようになれば、活動の内容にも違いが出てくると思ったからである。また、自分が頑張っても上手くいかなかったことも、普段は家族がやってくれているということがわかると、家族への感謝の気持ちも増し、本単元で子ども達に気づいてほしかった「家族への愛情」にもより気づけると考えた。しかし、本時へ単元が進むにつれて、予想していた「もう一度やってみたい。」という思いとは違った思いが子ども達の中に生まれてきた。それは、「失敗してしまったから、何としてでも成功させたい。」という思いである。これは、子ども達の「切実さ」にもつながってくる。

子ども達の切実さは、初めのお仕事大作戦を、失敗したと感じていたことから始まった。お仕事は任せとけと言って取り組んでいたが、実際は任されているかどうかかわからず、むしろ、任されていると自信を持って言える活動には、なっていなかったことに気づいたからである。子ども達は自分の活動を振りかえる中で、「じゃあ、どうしたら任せてもらえるのか。」という思いのもと、よい方法はないか。どうしたらいいのかを考えざるを得なくなり、はっきりさせたいという意識を持つようになっていった。よいアイディアは、なかなか出なかったが、クラスの中に一人だけ、家の仕事を任せてもらえていたという子がいたので、その話を聞けば手がかりが見つかるのではないかということになり、もう一度お仕事大作戦をする前に話を聞きたいという流れに変わった。本時における計画段階と実際の流れの変化は、子ども達の切実な思いが生まれてきたからこそその変化となったように感じる。

(3) 成果と課題

① 成果について

成果としては、大きく分けて2つの点がある。子ども達が話し合う中で、よくわからなくなったことを、皆ではっきりさせたいという気持ちを持つようになったことと、自分の取り組みのことを、話したいという思いを持つのと同時に、友達の話も聞いてみたいと他の人の意見に関心を持つようになったことである。

子ども達は今まで、よくわからないことについては、わからないという気持ちから、もうどうでもいいことへと変わってしまうことが多く、自分の思いや考えを持って一つのことを追求していく姿勢はあまりなかった。しかし、今回、自分の家のことを見たり聞いたりするなど、考えを持つ土台になるものを一人ひとり持てたことにより、皆の話し合いで出てきた疑問をはっきりさせようと、「私の家はこうだよ。」「お母さんがこんなことを言っていたよ。」などの意見を出し合いながら、解決していった。調べたり実際にやってみたりする体験をもとにしながら、それを根拠に話し合いが持てていたのは良かったと思う。

また、2つ目の他の人の意見にも関心を持つようになったという点では、全体での話し合いの前に設けた少人数での報告と、感想や質問を話す機会が生かされたように感じる。子ども達は一生懸命活動してきたからこそ、自分のことはもちろん、皆はどうだったのだろうと興味を持つことになった。そして、十分に自分の話を皆にしたり、聞いたりする場を確保することで、もっと頑張ろうという意欲付けにもなったように感じる。活動を重視することは、この単元を子ども達と作っていく上では、とても重要になった。

② 課題について

本単元の中での大きな課題は、本時で取り上げた「仕事を任されるための秘密を探ろう」という中で出てきた「秘密」という言葉の曖昧さであると考え。子ども達は1回目のお仕事大作戦を失敗してしまったからこそ、今度こそ成功するために秘密を探りたいとなったが、探りたいという思いが強くなりすぎて、秘密というものがどんなことなのかを、明確にできないまま進んでしまった。教師の考える秘密とは、例えばお風呂掃除についてなら、洗剤を残さないようによく洗うことや、すみずみまで洗う（浴槽の角を忘れずに洗う）などだったが、子ども達の中での任される秘密とは、「任せてくれる？」と聞くかどうかだけに集中してしまった。

また、任されていた秘密を探るために、唯一任されていた子が教室でお風呂掃除をしたのだが、実物のお風呂に近いものを用意して、子ども達の前に出したところ、その実物に気を取られて秘密を探るという課題を忘れていた子が多かった。任されていた子が、自分の言葉で語りながらお風呂掃除をする中で、自分のやってきたこととの違いに聞いて気づいて欲しいと思ったが、実物を見たいという見る思いのほうが強くなってしまった。本時の課題について、子ども達はきちんと把握できていなかったのかもしれない。そこで、課題とずれてしまった時に、教師が本時の課題を確認して、話を戻す声掛けを行う必要があったと感じる。

③ ひびき合いについて

家族の思いに気づき、友達の話聞く中から、さらに家族の思いに関する新たな気づきを得られるようにし、よりよい活動の追究をすることや、家の仕事への責任を持つことをひびき合いと考えて単元を作ってきた。友達の発言から、「ああ、そうか。」「じゃあ、こうしよう。」と、新たな気づきを得て、活動の幅を広げることができたが、その点から自分の仕事に責任を持つようなどころまでは到達しなかった。意欲的に活動している子は、「家の人にもっと喜んでほしい。」という思いや、「だから今度は自分の仕事をこうしたい。」などの思いを、友達との話し合いの中から得てきたが、全体に広がらなかったのは、一人ひとりの意識が高まらなかったからではないだろうか考える。意識の高まりを全体に返すことから、「自分も真似してみよう。」や、「それをしてみよう。」と、ひびき合う機会をもっと自然に作れたのかもしれない。

特に本時では、子ども達がひびき合うだろう機会を作るはずが、本時の課題からずれたことで、友達の話十分に聞くことができなかったのは反省点である。ひびき合いを予想できるところではその場を確保し、それ以外では、子ども達が今、何を意識していて、どんなことを考えたいと思っているかを見取りながら、単元を作っていきたい。